

## 1 コシヒカリの生育状況

平年に比べ、草丈は並み、茎数は多くなっています。葉色は、ほぼ平年並みですが、圃場による差が大きくなっています。

また、葉齢の展開は、平年並みで、幼穂形成期は7月10日頃（田植え日5月12日頃の場合）と予想されます。

表 コシヒカリの生育状況(7月2日、アルプス米標準田 23か所平均)

コシヒカリ	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	幼穂形成期
		本/株	本/m <sup>2</sup>			
H30	61.6	25.1	518	11.4	4.2	(7/10)
H29	54.7	26.0	533	11.1	4.2	7/11
平年	62.1	24.6	476	11.3	4.1	7/10

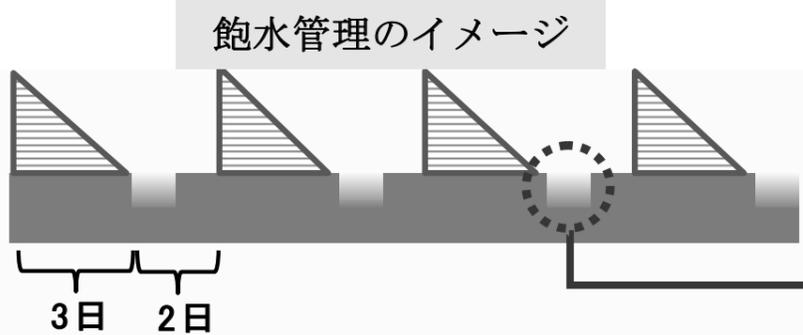
※平年値はアルプス米標準田 H20～H29の平均値

※今年の幼穂形成期は推定値

## 2 出穂期までの水管理 ～幼穂形成期以降は飽水管理を必ず行う～

○幼穂形成期から出穂期までは『飽水管理』を行い、葉色の急激な低下を防ぎましょう。

○幼穂形成期後は、肥効調節型肥料（基肥一発肥料）の穂肥相当分の溶出時期なので、圃場が乾くと肥料の吸収不良で葉色が上がらず、稲の活力が低下します。



○飽水管理は3cm程度入水→自然減水（足跡に水が残っている状態）→入水を繰り返しましょう。

○4日以上湛水状態が続く圃場では強制落水しましょう。

○フェーンが予想される場合は、水不足にならないよう、あらかじめ入水しましょう。

○下流域まで十分に水が行き渡るようかけ流しを止め、地域での計画的な用水の利用に努めましょう。

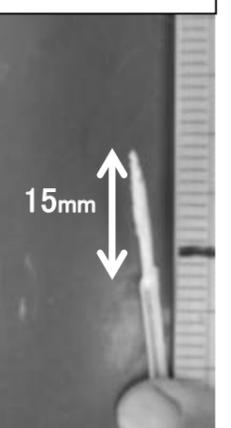
## 3 コシヒカリの穂肥(分施肥) ～穂肥は「1回目は慎重」に「2回目は確実」に行う～

穂肥の施用にあたっては、圃場の生育状況と幼穂の長さを必ず確認しましょう。

○生育量別穂肥の目安（穂肥は、追肥3号を施用）

1回目穂肥施用時の生育量と施用量 (幼穂長 15mm：幼穂形成期(幼穂長 2mm)から8日後)					2回目穂肥	
生育量	草丈	葉色	施用時期	10a当たり施用量	施用時期	10a当たり施用量
適正	82cm以下	3.6	7/18頃	10kg	1回目穂肥の7日後	10～13kg (砂壤土13kg)
やや過剰	82～87cm	3.8程度	7/20～22頃	7kg以内		10kg
過剰	87cm以上	4.0以上	施用しない		出穂7日前 (7/26頃)	7～10kg

1回目穂肥時の幼穂の様子



## 4 てんこもりの穂肥

肥効調節型肥料（基肥一発肥料）を施用した圃場で、葉色が淡い場合や、分施肥の方は、各営農経済センター又は農林振興センターまでご相談下さい。

### 適期作業看板設置中

JAアルプスでは昨年に引き続き「適期作業看板」を設置し、基本技術の励行指導を行っています。この看板は、適宜取り替えて掲示していますので、適期作業の参考としてご活用下さい。



## 5 てんたかくの基本防除 ～3回の適期防除の徹底で斑点米を撲滅！～

「てんたかく」は、例年「カメムシ類による斑点米」が格下げの主な要因となっています。3回の基本防除を徹底し、斑点米の被害を防止しましょう。

適期防除に加え、草刈りも徹底を！  
草刈り運動期間：7月1日～10日  
一斉草刈り日：7/7(土)～8(日)

### (1) 管内のカメムシ発生状況（雑草地・畦畔等）

6月下旬に管内の雑草地や畦畔等ですくいとり調査を行った結果、今年もカメムシ類の確認地点率は高く、1地点当たりの捕獲頭数も多い状況でした。

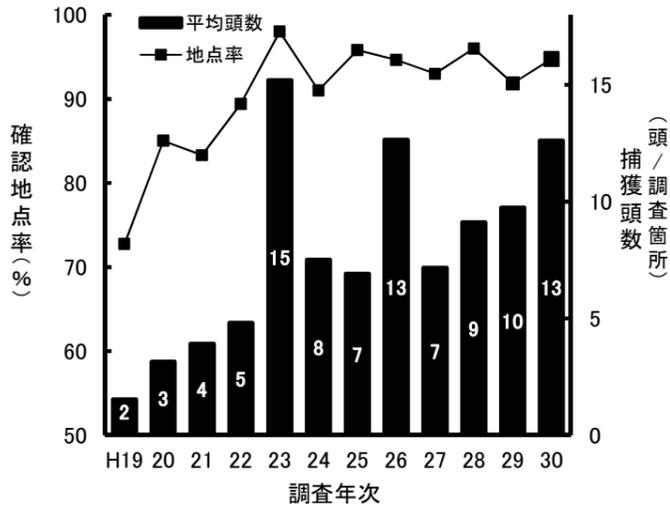
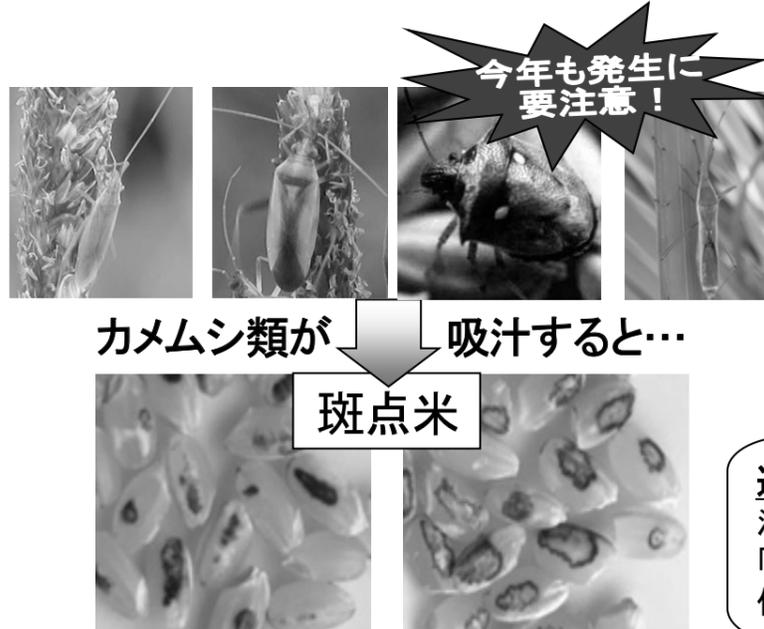


図 斑点米カメムシ類の確認地点率と平均頭数 (畦畔・雑草地 6月下旬)



斑点米は、1,000粒に2粒以上混じると1等になりません！

適期防除の徹底で、消費者が求める、「高品質なてんたかく」に仕上げましょう！

### (2) 防除時期のめやす(5月8日田植え、幼穂形成期6/30頃、出穂期予想7/24頃の場合)

防除時期	出穂始め(穂が2～3割見られたら)	穂揃期	傾穂期
	7月19～21日頃	7月26～28日頃	8月2～4日頃
粉剤	バリダジョーカー粉剤 DL 4kg/10a(収穫14日前まで)	ラブサイドキラップ粉剤 DL 4kg/10a(収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a(収穫7日前まで)
液剤	バリダシン液剤5 1,000倍(収穫14日前まで) + MR. ジョーカーEW 2,000倍(収穫14日前まで)	ラブサイドフロアブル 1,000倍(収穫7日前まで) + キラップフロアブル 1,000倍(収穫14日前まで)	スタークル液剤 10 1,000倍(収穫7日前まで)
	散布量: 150ℓ/10a	散布量: 150ℓ/10a	散布量: 150ℓ/10a
対象病害虫	紋枯病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

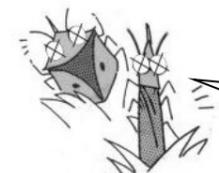
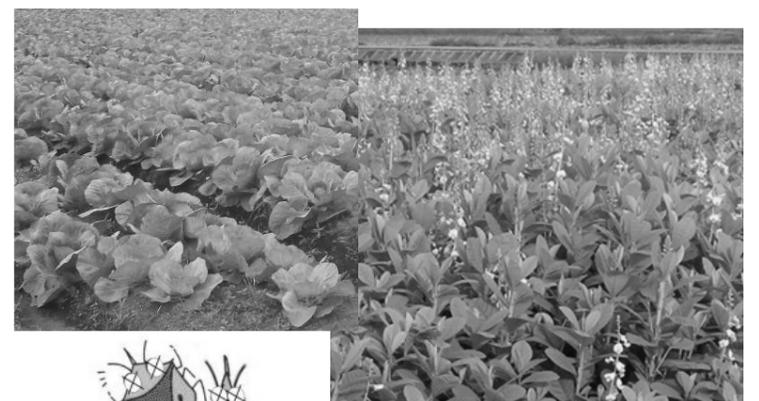
- ※田植時期等によって生育差があるため、防除時期は生育状況を確認して決めましょう。
- ※防除間隔は7日を基本とし、10日以上あけないようにしましょう。
- ※薬剤は決められた量や濃度を守り、畦畔や株元にも十分かかるように散布しましょう。
- ※農薬を散布する際は、周辺の野菜等他作物や住宅地への飛散防止に努めましょう。

「防除時期が遅れた」、「防除間隔が長くなった」等、防除時期のずれが斑点米の発生につながります！

## 6 大麦跡圃場・不作付地の有効活用

大麦跡圃場等をそのまま放置するとスズメノテッポウ等の雑草が繁茂し、カメムシ類の増殖源になります。下記の対応により、カメムシ類の繁殖を抑え、斑点米の発生を防止しましょう。

- ①野菜やそばなど収益性のある作物を作付けする。
- ②地力増進作物(クロタラリア等)を作付けする。
- ③圃場を耕起する等、雑草が繁茂しないように管理する。



すみかがなくなったよう…

☆農作業の際は、適切な水分・塩分補給やこまめな休憩など、熱中症対策の徹底を！  
☆栽培履歴の記帳と農業生産工程管理(GAP)のチェックは忘れずに！